

菜園付きシェアハウスから団地再生まで

住みたい集合住宅35軒

パンナム特集も。

# BRUTUS®

街にも人にもつながる  
集合住宅・新時代



集まって住む。

Book in Book

ブルータス不動産、再び。

最新の賃貸集合住宅、物件案内13軒 /

2012 **2/15** 特別定価 **650**円

まるでリゾート地の別荘のように見えるこの場所、実は、賃貸集合住宅の共用部です。都市のターミナル駅、横浜までたった1駅。集まっているのは、ここに住むまで縁もゆかりもなかった住人たちです。

今、集合住宅のあり方が大きく変わろうとしています。個室で生活が完結する「閉じた箱」が並ぶだけではなく、畑があったり、広々としたラウンジが付いていた。街に対してもよりオープンで、家族や友人以外の人も無理なくつながれる。暮らしそのものを楽しめる。その象徴ともいえるのが、ここ数年で爆発的に増えている「シェアハウス」です。

キッチンや浴室といった水回りをはじめ、生活の場の多くを、我慢して分け合う。シェアハウスではなく、プライベートな部分は確保しながら、生活に。シェア部分をプラスする。新しい共有のカタチ。その方がずっと豊かで、ずっと楽しく、理にも通っていたりする。時には人生を変えるような新たな発想が生まれることもある。

集合住宅だからこそそのプラスα。その無限の可能性を感じさせてくれる「集まって住む場所」を訪ねました。

# 集まって住む。

特集



会々伊のシェアハウス「パルク」の共用部。大窓と天井高が印象的な空間が、集まる場所の魅力を演出している。家具がけでなく調理器具や食器もすべて揃っている。



共用棟のキッチン部分は、3軒のシェアハウスの経験から、換気扇は高性能のものが付けられている。レストアしたアンティークの照明や対面カウンターもきれしい。



共用棟のキッチン部分、3軒のシェアハウスの経験から、換気扇は高性能のものが付けられている。レストアしたアンティークの照明や対面カウンターもきれしい。

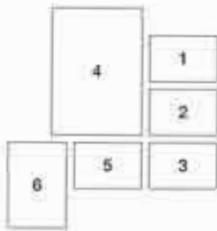


最新  
シェアハウス  
4選

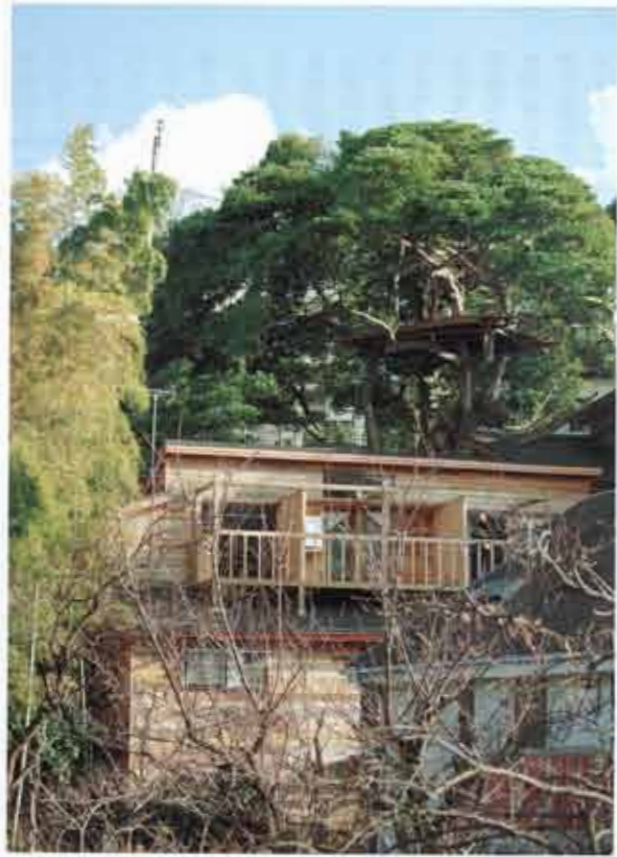
ツリーハウスの下で始まる新しい共同生活。

バウハウス横浜  
■ 神奈川県横浜市

住居棟と共用棟をつなぐデッキからツリーハウスの作業を愛上げる住人の皆さん。樹上にいるのはオーナーは世田 大樹(左)と副オーナー 岩田和雄(右)



- 1 住居棟3階にある小島沙織さんの部屋。写真が趣味の彼女の部屋には、撮った写真やおじいさんからもらったアンティークのライカが飾られている。
- 2 料理家さん、通称「料理長」の部屋は2階。ギターやレコジャケが飾られている男の子らしい部屋だ。
- 3 立花佳奈子さんは、大関商品研究所のスタッフでもある。リビングのオリエンタルテイストは彼女のセンス。
- 4 住居棟を下から見上げた図。ツリーハウスが完成したらさぞや社風に違いない。
- 5 引越した際の空室。清潔感を感じさせる竹が、すべての部屋の窓から見える。
- 6 1フロアにドアがズラリと並び一般的なシェアハウスの風景はここにはない。



private



ス横浜」には、1カ所として「まいいか」がないのだ。  
 ここで、住人たちの声を聞いてみよう。「シェアハウスが目的じゃないで、どうしてもここに住みたいと申し込みました。ただ思いが勝ちすぎるとよくないかなと思っ、今は自分をゆっくり馴染ませようと思ってます。新築ということもあって、みんな同時に入居するという点も魅力でした」（料理家さん）。「以前からパウハウスのHPを見ていて、憧れていたんです。ここに住み始めて、いろいろな人と出会う機会が増えて、すごく生活が楽しくなりました。一番のお気に入りはお風呂♪ 湯船からの眺めは最高です」（島村慶子さん）。「シェアハウスって我慢して住むものかと思ってたんで

すけど、住んでみたら全然違ってむしろ足算とかかけ算ができる住み方だと思いました。風が強い日には竹の幹がカンカンカンってぶつかり合っていて、すごくいい音がするんですよ」（小島沙織さん）。「リビングからの眺めが素晴らしいので、外に出なくなりそう。プロジェクトをつけて、映画をみんんで観たりしたいですね」（立花佳奈子さん）。「最初はただ木の木を見に来ただけのつもりだったんですけど、来てみたら絶対住みたいと思って。ツリーハウスができたなら、あそこで本を読みたいな」（長崎貴子さん）  
 大関らスタッフと8人の住人たち、この「パウハウス横浜」に魅せられた人たちが訪いでゆく物語は、今始まったばかりだ。

パウハウス横浜

- 建築/新築。2011年スタート
- 所在地/神奈川県横浜市神奈川区
- シェア部分/ツリーハウス、ウッドデッキ、キッチン、風呂など
- 住戸数/8戸
- 敷地面積・住戸専有面積/294.86㎡・12.4㎡
- 賃料/62,000~68,000円
- 管理費・光熱費/合計10,000円
- 問合せ先/大関商品研究所 ☎03-3457-6522



ツリーハウスの下で始まる新しい共同生活。



- 1 共用棟の玄関。JR横浜駅まで自転車なら約5分だ。
- 2 料理さんが一番気に入っているのが、このウッドデッキのハンモック。大関たちの遊び心が生んだアイデア。
- 3 3層構造になっているリビングは、天井の高さが気持ちいい。最下層には食卓に利用されるテーブルも。
- 4 リビングに設置された薪ストーブ。これもものすごく暖かい。そして炎のある景色は心も温めてくれます。
- 5 共用棟のバスルーム。広い窓にはブラインドも付いているけれど、湯船からの眺望を望む人がほとんどだ。



最初に紹介するのはシェアハウスには稀有な新築物件、「パウハウス横浜」。社員寮や住宅からのリノベーションが主流を占めるなか、これまで3軒のリノベ型シェアハウスを手がけてきた大関商品研究所が、その経験を活かして初挑戦した新築、しかもなんとツリーハウス付きなのだ。

予定だ。大関は屈託なく語る。「家作りというのは、手をかければかけるほど、個性も温かみも出てくるのだと思います。僕らにはかけるお金はないけれど、手をかけるための時間と体力なら十二分にありますから」  
 そのままのまっさらな、4年前にまで遡る。ネットの不動産情報サイトを眺めていた大関は偶然、「二束三文の(空室)土地を見つけた。JR横浜駅からさほど遠くない場所だ、けっこう広いのになぜこんなに安いんだろうという純粋な興味からその土地を見に行ったのが2008年秋。見てみれば、幹線道路から奥まった急勾配の傾

斜地で、鬱蒼とした竹林の真ん中に一本どーんと楠の巨木が立つ扱いにくい土地だった。が、大関はその楠にひと目惚れ。そして「家を建てられなくてもツリーハウスなら作れそうだし、会社の本社をそこに移転したら楽しそうだな」という、何とものんびりした動機でその土地を購入してしまっただけ。おまけにその後仕事に追われ、翌年夏までほったらかしにしていたというから、いかにこの土地で商売する気がなかったかがわかる。

の完成はまだ先。ほかにも外構部とか手を入れたい部分はたくさんあるから、多分ずーっと手を入れ続けるんじゃないかな」と、手離れさせる気は全然なさそうだ。  
 ところで、この「パウハウス横浜」、来歴だけが個人的なわけじゃない。まず目につくのは、共用部と住居部が別棟になっている点。「例えば友達を訪ねてきてリビングでパーティをする時も、別棟なら気兼ねなくゆるゆるじゃないですか」。また傾斜地を利用した住居棟は3フロアからなり、全8部屋の独立性が高く、プライベート感が保たれている。「階層が増える分、傾斜地はシェアハウスに向いているんじゃないかな。リビングの眺望も傾斜地のおかげですから」。もしも基礎工事の時に重機が使えたら、さっさと更地化してしまい、傾斜を利用した段差構造が生まれたかどうかはわからない。昔ながらの手仕事がこの豊かな構造を実現したのである。

また、インテリアやエクステリアに利用されている竹は伐採した時に出土した廃材だし、共用リビングや風呂場のタイルは、品質はいいがデザインが強すぎて普通の住宅には使いつらく、メーカーの倉庫に眠っていたものを格安で入手したもの。そして照明からドアノブ、窓枠に至るまで、レストアを施した古道具が使われ、その一方でキッチンには研究所の別部門での付き合いを活かして、ホンザキの業務用冷蔵庫が鎮座ましましていたりもする。つまりこの「パウハウ